

参 考 資 料

- 1 市民意識等
- 2 策定の経過等
- 3 地域の環境を把握するための情報の整理例

1 市民意識等

地域戦略の策定にあたり、アンケート調査やパブリックコメント等の様々な手法により、生物多様性についての市民意識等の把握に努めました。主な調査等の結果は次の通りです。

●平成 23 年度第 2 回かわさき市民アンケートによる調査

- ◆調査対象 川崎市在住の満 20 歳以上の男女個人
- ◆標本数 3,000 標本
- ◆有効回収数 1,500 標本（有効回答率 50%）
- ◆調査期間 平成 23 年 10 月 28 日から 11 月 17 日

◎調査結果（概要版より生物多様性に関する部分を抜粋）

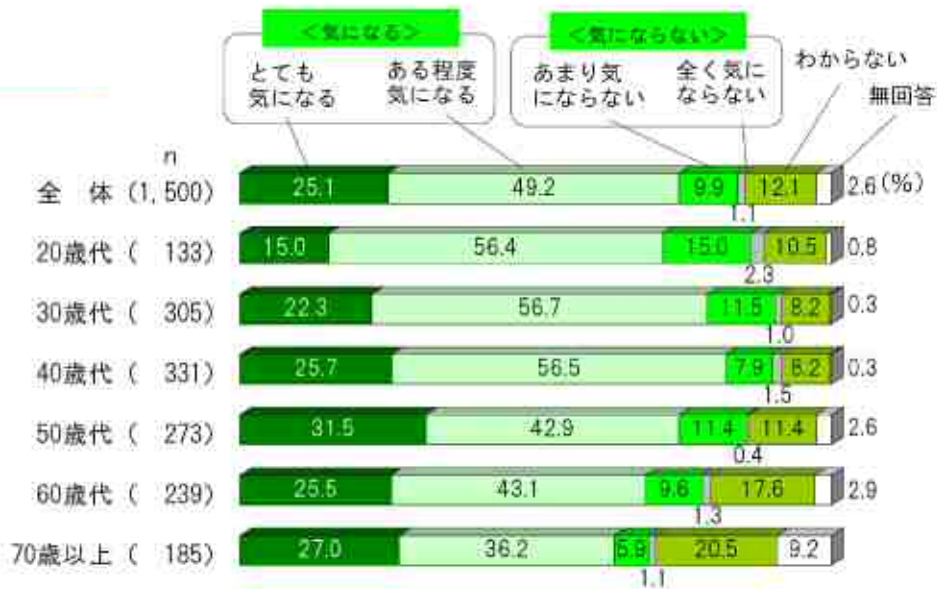
1 「生物多様性」の認知状況

「生物多様性」の認知状況を聞いた。「言葉の意味を知っていた」（36.8%）が3割台後半、「言葉は聞いたことがあるが意味は知らなかった」（31.8%）が3割強、「聞いたことがなかった」（29.0%）が3割弱となっている。年代別でみると、「言葉の意味を知っていた」は20歳代（46.6%）で最も高くなっている。



2 生物多様性の危機への現状認識について

生物多様性の危機への現状認識について聞いた。「とても気になる」(25.1%)と「ある程度気になる」(49.2%)を合わせた「気になる」が7割を超えている。一方、「あまり気にならない」(9.9%)と「全く気にならない」(1.1%)を合わせた「気にならない」は約1割となっている。年代別で見ると、40歳代で「気になる」の割合が8割を超え最も高くなっている。また、「とても気になる」の割合は、50歳代(31.5%)で3割を超え最も高くなっている。



3 自然を感じる場所について

身近なところで自然を感じる場所について聞いた。居住区別で見ると、「川、池などの水辺」は、中原区(62.3%)、高津区(56.6%)、幸区(51.6%)、川崎区(46.8%)で第1位となっている。「近郊の緑地」は、麻生区(64.2%)、多摩区(57.2%)、宮前区(54.3%)で第1位となっている。

居住区別 上位5項目(複数回答)

区別	順位	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 (n=1,500)		川、池などの水辺 49.8	近郊の緑地 47.2	身近な公園・緑道 43.0	樹林のある大きな公園 40.3	田や畑などの農地 27.1
川崎区 (n=231)		川、池などの水辺 46.8	身近な公園・緑道 40.3	樹林のある大きな公園 39.0	近郊の緑地 29.0	神社・お寺 19.5
幸区 (n=153)		川、池などの水辺 51.6	身近な公園・緑道 47.7	樹林のある大きな公園 35.9	近郊の緑地 32.7	神社・お寺 17.6
中原区 (n=257)		川、池などの水辺 62.3	近郊の緑地 47.9	身近な公園・緑道 45.5	樹林のある大きな公園 39.7	神社・お寺 22.6
高津区 (n=213)		川、池などの水辺 56.6	樹林のある大きな公園 46.1	近郊の緑地 44.3	身近な公園・緑道 40.6	田や畑などの農地 30.1
宮前区 (n=247)		近郊の緑地 54.3	樹林のある大きな公園 50.6	身近な公園・緑道 46.2	川、池などの水辺 38.1	田や畑などの農地 34.8
多摩区 (n=208)		近郊の緑地 57.2	川、池などの水辺 56.7	身近な公園・緑道 34.6	田や畑などの農地 33.2	樹林のある大きな公園 31.3
麻生区 (n=176)		近郊の緑地 64.2	身近な公園・緑道 46.6	田や畑などの農地 39.2	樹林のある大きな公園 36.4	川、池などの水辺 33.5

4 生き物や自然環境を守るために、現在個人として取り組んでいること

生き物や自然環境を守るために、現在個人として取り組んでいることを聞いた。「ごみの減量やリサイクルに取り組む」(64.9%)、「節電やエコドライブなどに取り組む」(62.6%)がそれぞれ6割を超え高くなっている。次いで、「日常の中で身のまわりにある自然に目を向け、大切にする」(50.8%)、「旬のもの、地のものを選んで購入する」(47.1%)と続いている。



●生物多様性かわさき戦略の策定に関する意見募集の結果

◎意見募集の結果の概要

題名	「(仮称) 生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～」の策定に関する意見の募集について
意見の募集期間	平成26年1月15日(水)～平成26年2月13日(木)
意見の提出方法	電子メール、FAX、郵送、持参
意見の周知方法	川崎市ホームページ、情報プラザ、各区役所、市政だより、環境局総務部環境調整課、その他(「2013年度 花と緑の交流会」等での周知)
意見の提出数	17通(60件)
主な意見	戦略策定に賛同する意見や、生物多様性の保全が幅広い分野がかかわることから、国や県、近隣他都市との連携の重要性や市内での連携の必要性に関する意見、今後の取組に関する提案等

2 策定の経過等

(1) 生物多様性かわさき戦略策定の経過

年月日	実施項目	主な内容等
2010（平成22）年 10月	生物多様性かわさきフォーラム	・基調講演（東京都市大学涌井史郎教授） ・事例報告
2011（平成23）年 4月	庁内検討会議の設置	・生物多様性の取組の必要性について
		・外部有識者を交えた川崎市における生物多様性の保全に向けた基本的な考え方についての検討（座長：東京都市大学涌井史郎教授）
10月	かわさき市民アンケート	・生物多様性について
2012（平成24）年 4月	環境審議会	・川崎市生物多様性地域戦略策定に向けた基本的な考え方について（諮問）
5月	環境審議会緑と公園部会	・川崎市生物多様性地域戦略の背景について ・川崎市の生物多様性の課題の整理について
7月	市民団体、市内事業者へのアンケート	・生物多様性の保全の配慮した活動について
8月	環境審議会緑と公園部会	・川崎市の生物多様性を捉える視点について
10月	生物多様性フォーラム「川崎の生物多様性を考える」～都市と生き物の共生に向けて～	・基調講演（環境省生物多様性施策推進室） ・事例紹介
11月	環境審議会緑と公園部会	・柱となる取組について
1月	環境審議会緑と公園部会	・部会報告案について
3月	環境審議会	・答申案について
2013（平成25）年 4月	環境審議会	・川崎市生物多様性地域戦略策定に向けた基本的な考え方について（答申）
	生き物調査	・生態系エリア別に地点を絞った調査
12月	市民活動状況調査	・活動分類、分類別ヒアリング調査
2014（平成26）年 1月	パブリックコメント手続き	・「（仮称）生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～」の策定に関する意見募集について
3月		生物多様性かわさき戦略～人と生き物つながりプラン～の策定・公表

(2) 川崎市環境審議会委員名簿 (50音順、敬称略、所属等は就任当時)

2012 (平成 24) 年 4 月 20 日 (諮問日) ~ 2013 (平成 25) 年 4 月 9 日 (答申日)

氏名	所属等	専門分野等	備考
石井 誠一郎	川崎市医師会理事	市民代表	
石川 幹子	東京大学大学院工学系研究科教授	環境デザイン	
井田 肇	川崎市全町内会連合会会計監査	市民代表	
今泉 忠明	㈱ねこの博物館館長	哺乳動物学	臨時委員
大迫 政浩	(独)国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター長	環境工学	
落合 由紀子	東海大学教養学部准教授	経済政策	
影山 亥史郎	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	
神戸 治夫	川崎公害病患者と家族の会顧問	市民代表	
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法、行政法	
小谷 幸亘	市民公募 (公害対策分野)	市民代表	
小西 淑人	㈱エフアンドエーテクノロジー研究所代表取締役	作業環境管理学	
坂本 和彦	埼玉大学名誉教授、埼玉県環境科学国際センター総長	大気環境科学、環境制御工学	
庄司 佳子	かわさき地球温暖化対策推進協議会会長	市民代表	
進士 五十八	東京農業大学名誉教授	環境学、造園学	会長
杉山 涼子	富士常葉大学社会環境学部教授	社会工学	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
鈴木 良樹	市民公募 (緑・公園分野)	市民代表	
相馬 豊	市民公募 (廃棄物分野)	市民代表	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合代表理事副組合長	市民代表	
田中 秀明	川崎商工会議所議員	市民代表	
萩原 利夫	市民公募 (公害対策分野)	市民代表	
藤井 修二	東京工業大学大学院教授	建築環境工学	副会長
藤田 由紀子	専修大学法学部教授	行政学、公共政策	
藤吉 誠一郎	川崎地域連合副議長	市民代表	
藤吉 秀昭	(財)日本環境衛生センター常務理事	廃棄物処理工学	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態学	
村上 公哉	芝浦工業大学工学部建築工学科教授	環境エネルギー計画	
村山 美香子	市民公募 (廃棄物部会)	市民代表	
吉門 洋	埼玉大学大学院理工学研究科教授	大気環境科学	

川崎市環境審議会緑と公園部会委員名簿（50音順、敬称略、所属等は就任当時）

氏名	所属等	専門分野等	備考
石川 幹子	東京大学大学院工学系研究科教授	環境デザイン	部会長
今泉 忠明	(株)ねこの博物館館長	哺乳動物学	臨時委員
影山 亥史郎	市民公募（緑・公園分野）	市民代表	
窪田 亜矢	東京大学大学院工学系研究科准教授	都市デザイン	
桑原 勇進	上智大学法学部教授	環境法、行政法	
鈴木 誠	東京農業大学地域環境科学部教授	造園学	
鈴木 良樹	市民公募（緑・公園分野）	市民代表	
立川 勲	セレサ川崎農業協同組合代表理事副組合長	市民代表	
藤吉 誠一郎	川崎地域連合副議長	市民代表	
南 佳典	玉川大学農学部教授	生態学、環境動態学	副部会長

(平成 24 年 7 月時点)

(3) 検討会議等

●庁内検討会議関係部署（組織名は2013（平成25）年度当時）

総務局行財政改革室
総合企画局都市経営部企画調整課
財政局財政部財政課
経済労働局産業政策部企画課
経済労働局農業振興センター
環境局地球環境推進室
環境局環境評価室
環境局環境対策部企画指導課
環境局環境対策部環境対策課
環境局環境総合研究所事業推進課
環境局環境総合研究所リスク調査課
健康福祉局総務部企画課
健康福祉局健康安全部生活衛生課
健康福祉局健康安全部動物愛護センター
まちづくり局総務部企画課
建設緑政局計画部企画課
建設緑政局計画部企画課（緑政企画担当）
建設緑政局緑政部緑政課
建設緑政局緑政部公園緑地課
建設緑政局緑政部多摩川施策推進課
建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園
建設緑政局緑政部生田緑地整備事務所
港湾局港湾経営部経営企画課
港湾局川崎港管理センター港営課
上下水道局下水道部下水道計画課
上下水道局調整担当
教育委員会事務局学校教育部指導課
教育委員会事務局青少年科学館
（事務局）環境局総務部環境調整課

3 地域の環境を把握するための情報の整理例（本編P 6 5 関連資料）

●生態系エリアごとの情報の整理例、環境審議会答申「川崎市生物多様性地域戦略策定に向けた基本的な考え方について」附属資料より

- ①丘陵地の農地と樹林の生態系エリア
- ②丘陵地の樹林の分散する生態系エリア
- ③低地の農地の分散する生態系エリア
- ④低地の市街地の生態系エリア
- ⑤多摩川の生態系エリア
- ⑥臨海部の生態系エリア

①丘陵地の農地と樹林の生態系エリア

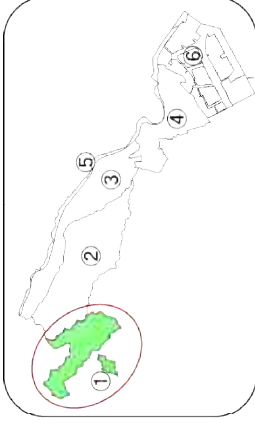
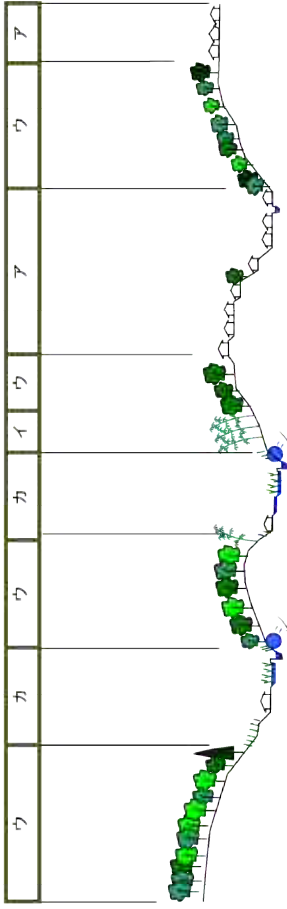
①丘陵地の農地と樹林の生態系エリア

生き物の生息・生育の拠点

a. 斜面の樹林と扇状地の農地

e. 緑の多い住宅地

c. 緑の多い住宅地
の中の斜面樹林



生物相の記録状況と変化
 ・ 種子植物 659 種 (2007~2009 年)、シダ植物 40 種類を記録 (2007~2010 年) *2
 ・ 鳥類 68 種 (2006~2010 年定例調査) *2、両生類 4 種を記録 (2005~2007 年) *1
 ・ 鳥類については、主だった留鳥の経年的な変化は小さい。ウグイスなど一部の種の減少、外来種のガビチョウの増加がみられた。(2006~2010 年) *2
 ・ トウキョウワタルマカエルが現在では生息しなくなると推定されている。 *2

< 主な生息・生育環境の特徴と特徴的な動植物の種 >

植生等 (主な生息・生育環境)	名称・特徴	ウ 落葉広葉樹林	工 草地・林縁等	カ 農地 (水田)、水境・水辺	シ 湧水	イ 竹林	ア 住宅地
主な動植物種 (各生息・生育環境で特徴的な種)	哺乳類 鳥類 爬虫類・両生類 魚類 昆虫類 底生動物 植物	クヌギ・コナラ主体で、林床にアズマネザサ等が分布するなど階層構造が複雑 自然的環境において農地と並び大きな面積を占める	農地と樹林の間の林縁にはその環境を好む種の群落が形成 局所的に分布する オオタカ、ノスリ (鳥類) <上位種>	水田、河川などが形成し、多様な場 (水エコトーン) から樹林等まで変化するエコトーンが形成される 西部の谷戸内にて大きな面積を占める	丘陵地からの湧水は、水量・水温が安定 各地の谷戸に分布する	植生・林床が単調 局所的に分布する。近年分布域が拡大傾向	人工的な場所であり、限られた生き物が生息・生育 中央部から東部に大きな面積を占める
主な外来種	アカネズミ ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、カケス アズマヒキガエル、シュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエル ミンミンゼミ、ルリタテハ、ノコギリクワガタ クヌギ、コナラ、シラカシ、ヒサカキ、アズマネザサ ガビチョウ	カヤネズミ ヒバリ、ツグミ、アオジ アオダイショウ、マムシ — トノサマバッタ、ショウリヨウバツタ、アカタテハ、オオチャバネセリ — クズ、オオバコ、カタバミ — メリケンカルカヤ、イヌムギ	アブラコウモリ アオサギ、カルガモ、キセキレイ、キジ イモリ、ニホンアマガエル、ツチガエル、イシガメ、ヤマカガシ — オオアイトトンボ、オニヤンマ、ギンヤンマ、コシメダナ カワナ、ヒメノアラガイ ハンノキ、ヨシ、オモダカ、ホシクサ、ミズガヤツリ コジュケイ オオフサモ	— — — ホトケドジョウ ゲンジボタル — スゲ類 — —	— — — — — — —	クマネズミ ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ トカゲ — — — — — — —	— — — — — — — — — —

生物多様性に関する特記事項

項目	状況	問題点等
生物多様性の保全などに関する活動の状況	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな市民活動により、自然観察会、里山の管理などを通じた人と生き物が触れ合う機会が多くなっている。 NP0 法人 (特非) 国際自然大学校、ぼるの野里山学校、黒川明坪村地保全会、水辺のある里山を守る会等多くの市民団体による環境の保全管理や調査、山の手入れ、森づくり等自然体験活動、農地の維持活動などの事例がある (黒川青少年野外活動センター等を活用)、また、里山フォーラム in 麻生などで活動の交流等も行われている。 黒川よこみね特別緑地保全地区が川崎市の緑の骨格を形成する「緑の拠点」に位置づけられている。 農業振興地域の 1 つである黒川地区が市の新総合計画で「緑と農の 3 大拠点」に位置づけられ、生物多様性の保全、樹林地・農地の保全再生等に関連する施策を推進することとされている。 	<ul style="list-style-type: none"> 農地の維持 (水田等に依存する動植物)、竹林等 樹生の適切な管理など
生き物や生態系の状況	<ul style="list-style-type: none"> 丘陵と入り組んだ谷戸の地形を有し、クヌギ・コナラを主体とした広葉樹二次林が多い。 一部市街化が進んでいるが、農業振興地域・市街化調整区域の規制もあり、谷戸部の水田、農地、湿地、河川の水辺、湧水等の自然資源、周辺の樹林等と一体となった多様な生態系である里山環境がまとまって残されている 里山環境を基礎に地域固有の多様な動植物が生息・生育し、ゲンジボタルやホトケドジョウ等の貴重な生物が生息している。 一部竹林 (モウソウチク) が生育し、手入れが不足し拡大傾向にある。 	
生き物に関する情報の収集、蓄積、発信の状況	<ul style="list-style-type: none"> NP0 法人かわわさき自然調査団等により谷戸の植物や鳥類の調査が実施され、情報が蓄積されている。情報が蓄積されている。 	

出典: *1 都市近郊の大学農圃とその周辺の里山を活用した保全教育の展開 (2008)

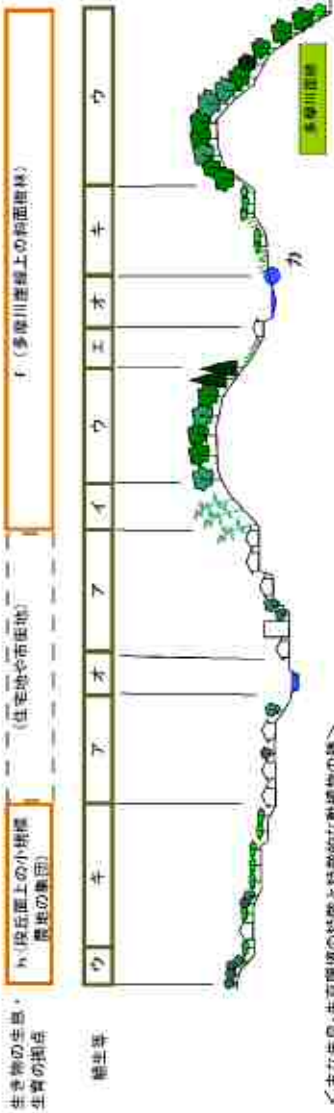
*2 川崎市自然環境調査報告 VI (2007)、VII (2011)

*3 川崎市動植物生息地保全施策のための指針作成委託 (その 1) (資料集) (2007)

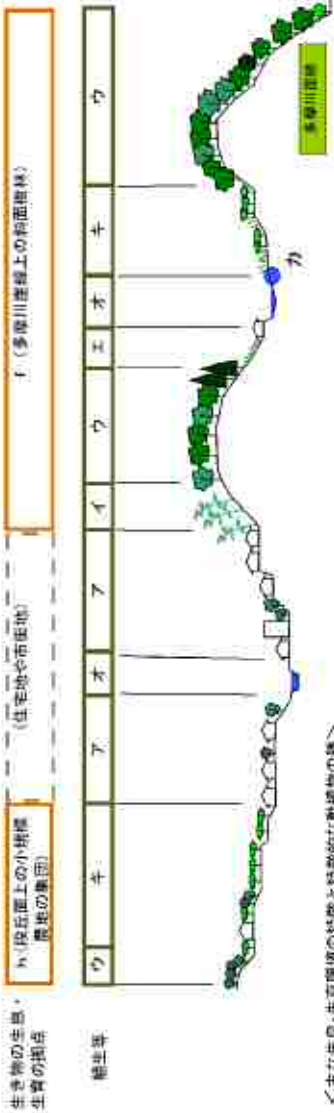
②丘陵地の樹林の分散する生態系エリア



生物相の段階的変遷(生息環境での記録)
 ・種子植物(65種) (1993～2006年)、シダ植物(82種)を記録(2001～2006年)、2006年には1994年の植物リスト(ワケカサツナ)などの取様が確認できなくなった。
 ・鳥類(19種)を記録(2008～2010年定期調査)、個体の経年的取像体数の減少は小さい(2002～2006年)
 ・カマムシ類(67種)(1999～2000年)、チョウ類(4種)を記録(2001～2002年)
 ・陸生動物(哺乳類)の調査(2001～2005年)



②丘陵地の樹林の分散する生態系エリア



種別	特徴	ア. 緑の多い住宅地	イ. 竹林	ウ. 雑草広葉樹林	エ. 草地・林縁等	オ. 水溝・水辺	カ. 湧水	キ. 農地(畑地・果樹園)
種生(主として、生育環境)		人工的な場所であり、隠れた生き物が生息・生育	樹生・林縁が特徴	クスギ・コナラ主体で、林下にアズマネザサ等が分布するなど階層構造が複雑、一部は針葉樹林や常緑広葉樹林となっているところがある	草地は人工的に造成された。多様な草種が生育している	丘陵地からの湧水は、水量・水温が安定	半人工的な場所であり、隠れた生き物が生息・生育	
分布の特徴		丘陵地の生態系エリアにおいて大きな面積を占める	局所的に分布する。近畿分市域が拡大傾向を占める	自然の環境において最も大きな面積を占める	局所的に分布する	局所的に分布する	局所的に分布する	
種数の生態・生育環境を利用する種								
主な動物種(各生態・生育環境で特徴的な種)								
哺乳類		クマネズミ	ヒヨドリ	アナヅマ、アカネズミ	カヤネズミ	アブラコウモリ	アブラコウモリ	
鳥類		ヒヨドリ、シジュウカラ、メジロ	ヒヨドリ	ヒヨドリ、ウグイス、キビタキ、カクズ	ウグイス、ウグイス	オシドリ、コサギ	ヒヨドリ、オナガ	
爬虫類		トカゲ	—	アズマヒキガエル、シムレウゲルアオガエル、ヤマアマガエル	マムシ	—	マムシ	
両生類		クロヤマアリ、アブラゼミ	サトキマダラヒカゲ、マダラカマドウマ、オオササギ	ミンゼミ、トリクダハ、ノゴゼリクワガタ	トノサマガエル、シヨウリヨウバツ、アカササハ	ゲンジボタル	アブラゼミ	
昆虫類		—	—	—	—	ホトケドジョウ	—	
成虫動物		ツバキ、ヤブガラシ	モウソウチク	クスギ、コナラ、シラカシ、ヤマツツジ、ムラサキシブ、アズマネザサ	シバ、クス、オオハコ、カタバミ	—	クス、オオハコ	
植物		コハンソウ	—	ガビネツユ、ソウシキョウ	オオボクサ、イタチハハ	—	トハト	
主な外来種		—	—	—	オオボクサ、イタチハハ	—	—	

項目	状況	問題点等
生物多様性の保全などに係る活動の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生息環境は若くは科学者や多くの市民団体による樹林の管理や保護などの事例が充実し、自然観察会、里山の管理などを通じた人と生き物が触れ合う機会が多くもたれている。 ・適正な樹生管理に向けた各主体による活動の調整の事例(生息環境ビジョン(平成23年3月)) ・緑地の調査・利用について計画を策定している事例がある(生息環境ビジョン(平成23年3月)) ・里山づくりとしての樹林の管理のほか、水田還元、農業体験活動等の取組み事例があり、環境教育・学習の場となっている。 ・緑化に関する市民団体による住宅地での取組が多く実施されている。 ・現状に富んだ地形を背景に、樹林地が多摩川流域の一角を形成し、多様な動植物が生息・生育しているが、里山、河川、湧水の環境のまとまり(生息環境タイプの(イ)など)や小規模な樹林地や果樹園などの豊地のまとまり(生息環境タイプの(ロ)など)が分布する。 ・生息環境、緑ヶ丘公園など、宅地開発が進んだ丘陵地の中に多様な動植物の生息・生育の拠点である生息環境が分散して残る。 ・地域固有の多様な動植物が生息・生育し、ゲンジボタルやホトケドジョウ等、市内でも見られる地域にしか見られない貴重な生き物が生息しているところがある。 ・多摩川崖上の樹林のまとまりが維持されているところや河川が生き物の移動経路となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模な公園化、樹林地等における野道による野鳥の襲撃、一般利用者による野生動物の採取など人と生き物のかわり方に問題が生じている。 ・樹林や農地が分散による、生態・生育環境の面での異質性の分散。 ・管理が実施されていない箇所でもウツクシの繁殖などの異質な劣化。
生き物や生態系の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・生息環境や生態に関する調査結果など多くの生き物に関する情報が蓄積されている(生息環境・かわさき自然観察会等)。 	
生き物に関する情報の収集、蓄積、発信の状況		

出典 ① 生息環境ビジョン(平成23年3月)
 ② 川崎市自然環境調査報告書VI(2007)、頁(2011)

④低地の市街地の生態系エリア

④低地の市街地の生態系エリア



・動植物については、アーク、資料が乏しい。
・生物相の記録状況と変化

＜主な生態・生育環境の特徴と特徴的な動植物の種類＞

項目	名称	ス	市街地・住宅地・道路	キ	公園緑地	カ	水陸・水辺
類主等(主な生態・生育環境)	特徴	人工的な場所であり、限られた生き物が生息・生育、繁殖された街路樹が緑の空間を形成	植生・林床が単調	植生・林床が単調で、グラウンド等人の利用空間は主に雑生ほシバなど限られた種で構成されている。	公園の地など。人工的な要素が多く、限られた種が利用する		
	分布の特徴	低地の生態系エリアにおいて大きな面積を占める	局所的に分布する。	局所的に分布する。	局所的に分布する		
種類の生態・生育環境を利用する種			ハンソトガラス				
主な動植物種(各生態・生育環境で特徴的な種)	哺乳類	クマネズミ、トブネズミ					
	鳥類	ハンソトガラス	アブラコウモリ スズメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、オナガ、ハンソトガラス	アブラコウモリ スズメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ハシブトガラス	アブラコウモリ アブラコウモリ ハクセキレイ		
	爬虫類・両生類	-					
	昆虫類	アブラゼミ	アブラゼミ、ミンミンゼミ		アブラゼミ、ミンミンゼミ	アメンボ	
	陸生動物	ケヤク、プラタナス			ケヤク、イチョウ、クスノキ、サクラ	イトミミズ科	
	魚類	ドバト			ドバト	ドバト	
主な外来種	植物	オオキケンケイギク			オオキケンケイギク		

生物多様性に関する特記事項

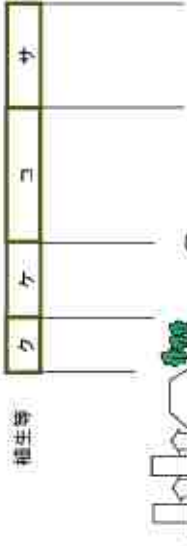
項目	状況	問題点
生物多様性の保全などに係る活動の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地元自治会等(登録団体数50団体以上)が、道路や公園等で地域緑化(プランター)の維持管理等)を実施している。 ・さいわい加瀬山の会が、参勤ヶ崎公園において花壇の手入れ、竹の整備・苗移植、歴史探検・地区の健康の森見学・交流会を行っている。(緑地保全の登録団体は1団体のみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑地保全の活動は少なく、地域緑化の活動が主となっている。
生き物や生態系の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川低地のほぼ平坦な地形が基盤を形成。市街地・住宅地がほとんどで、相地などの窪地、都市公園が局所的に散在。 ・隣接する多摩川には草場、水辺などの生態・生育環境が広がっており、移動してくる動物がみられる。多摩川以外の水辺空間はほとんどない。 ・池、樹林など局所的な憩息・生育環境に貴重な生物がまねにみられる。 ・街路樹や事業所の緑地、公園の植栽された街路樹は日常的な管理が実施され、そのような植生を利用可能な動植物が生息する。 ・公園や緑地は人が遊ぶ空間としてだけでなく、都市の中で最も身近な生き物と触れ合える空間となっている。 ・緑の基本計画(2008)で大規模公園が緑の拠点(地区公園等)に指定され、緑と水のネットワーク形態上の重要な地域緑地拠点に位置づけられている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生息・生育する動植物は限られた種群となっている。
生き物に関する情報の収集、蓄積、発信の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の科学会等の活動が実施されている。 ・さまざまな事業所と行政が緑化協議会というネットワークを構成し、事業所の緑化を推進している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物とその生態・生育環境に関する公開された情報が少ない。

⑤多摩川の生態系エリア

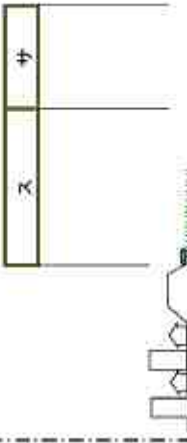
⑤多摩川の生態系エリア

生き物の生息・生育の拠点

川水・上流水辺の遊歩道・河原・遊歩道



川水・上流水辺の遊歩道・河原・遊歩道



生物相の推移状況と変化
 ・動植物については、国による河川水辺の調査結果が1980年代以降定期的に実施され、生物相が概ね把握されている。
 ・水質の改善に伴いフナ等の生き物（遊魚）が増加している。
 ・河口部付近ではスズメ、ムクドリ等都市型野鳥の増加傾向がみられるが、カモ類等の越冬数は安定し、鳥類相は1996年と比較し変化は小さい。

<主な生息・生育環境の特徴と特徴的な動植物の場>

項目	名称	特徴	分布の特徴	種別	主な動植物種 (各生息・生育環境で特徴的な種)	主な外来種
生き物の生息・生育環境	川水・上流水辺の遊歩道・河原・遊歩道	高水敷の遊歩道が多く、草花性の昆虫類がみられる。	多摩川の生態系エリアにおいて大きな面積を占める	水生昆虫類	カヤネズミ、ハツガハネズミ、スズメ、ムクドリ、メジロ、ムクドリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、トカゲ	カヤネズミ、ハツガハネズミ、スズメ、ムクドリ、メジロ、ムクドリ、ハクセキレイ、ハシブトガラス、トカゲ
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	哺乳類	タヌキ	タヌキ
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	鳥類	ヒヨドリ、シジュウカラ	ヒヨドリ、シジュウカラ
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	爬虫類・両生類	-	-
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	昆虫類	アブラゼミ、コムラサキ	アブラゼミ、コムラサキ
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	魚類	-	-
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	水生動物	-	-
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	植物	ヤナギ科、ニセアカシア	ヤナギ科、ニセアカシア
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	動物	オオキنگアゲキ	オオキングアゲキ
生き物の生息・生育環境	河原・遊歩道	高水敷の上の樹林	局所的に分佈する	動物	ニセアカシア	ニセアカシア

生物多様性に関する特記事項

項目	状況	特記事項
生物多様性の保全などに關する活動の状況	状況	<ul style="list-style-type: none"> かわさき水辺の楽校、とどろき水辺の楽校、だいい水辺の楽校、NPO法人多摩川エコミュージアム等、多くの市民団体が、多摩川を環境教育の場として利用し、環境保全活動を実施している。 グラウンド等の人が利用し、憩う空間が多いが、生き物の保全を優先する区間が設定されるなど、河川管理の改善と保全が河川管理上の課題として取組まれている。 上流や河原との連携など、行政界を越えた連携がある。 多摩川の河川区域内の空間には市街地・住宅地はなく、河川に特有の遊歩道、砂州・河原、高水敷、ヨシ原、平高などの環境が分佈し、多様な生き物の生息・生育基盤となっている。 高水敷ではグラウンドや公園などの土地利用が拡大しており、一部に自然に形成される樹林や草地の分佈もみられる。 生き物の生息・生育基盤であるほか、アユなどの動物が移動経路として利用し、上流と海をつなげる廊下となっている。 水際、砂州など局所的な生息・生育基盤に貴重な生物がみられる。 グラウンドや公園では緑豊かな樹林帯が動物の生息・生育空間となり、自然的な緑地が活用されている。 多摩川を環境教育の場等として利用する多くの市民団体が活動の情報を発信している。 河川水辺の自然環境調査の多くのデータが蓄積、公開されている。
生き物や生態系の状況	状況	<ul style="list-style-type: none"> 河川水辺の自然環境調査の結果、河川に特有の遊歩道、砂州・河原、高水敷、ヨシ原、平高などの環境が分佈し、多様な生き物の生息・生育基盤となっている。 河川水辺の自然環境調査の結果、河川に特有の遊歩道、砂州・河原、高水敷、ヨシ原、平高などの環境が分佈し、多様な生き物の生息・生育基盤となっている。

出典：*1 河川整備基本方針-多摩川水系流域及び河川の概要 (2000)
 *2 川崎市自然環境調査報告書VI (2007)、VII (2011)

生物多様性かわさき戦略
～人と生き物つながりプラン～

2014（平成26）年 3月

発行 川崎市

編集 環境局総務部環境調整課

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

TEL：044-200-3720

FAX：044-200-3921



KAWASAKI CITY